

株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金受領株主確定日	期末配当 11月30日 中間配当 5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	電子公告（当社ホームページ） ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社に関する情報がご覧になれます。



<http://www.hokkochem.co.jp/>

～株主の皆様へ～

第62期 中間事業レポート

（平成22年12月1日から平成23年5月31日まで）



〒103-8341 東京都中央区日本橋本石町四丁目4番20号
TEL 03(3279)5151



北興化学工業株式会社

●株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年3月11日に発生いたしました東日本大震災につきましては、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い被災地の復旧・復興をお祈り申し上げます。

この震災により、当社グループにおきましても、製品在庫の一部が毀損したほか、当社の仙台支店が被害を受けましたが、既に新事務所に移転し通常通りの営業を再開しております。

さて、当社グループの第62期上半期（平成22年12月1日から平成23年5月31日まで）の事業概況につきまして、ご報告申し上げます。

■ 上期の事業の経過および成果

当期間におけるわが国経済は、昨年末以降、輸出・生産の持ち直しにより、景気の踊り場からの脱却が進みつつありましたが、東日本大震災により、被災地や周辺に集積していた多くの部品メーカーなどが操業停止を余儀なくされ、サプライチェーンが寸断されるとともに、需要

水準が激減したことから、大打撃を受け、大きく悪化いたしました。

サプライチェーンは徐々に回復しつつありますが、2,500万トンと言われるガレキ処理や福島第一原発の放射能汚染問題、夏場の全国的な電力不足による生産への影響懸念などもあり、国内経済は大きく停滞しております。

このような状況の中、当社グループは積極的な販売に努めましたが、農薬製品の販売は、水稲用一発処理除草剤のエーワン剤や新剤の園芸用殺菌剤リベロフロアブルが伸長したものの、水稲育苗箱市場の競争激化などにより減収となり、農薬事業の売上高は170億7千8百万円となりました。一方、ファインケミカル製品の販売は、わが国経済の足踏み状態による影響から電子材料原料や防汚剤等の需要が落ち込んだため減収となり、ファインケミカル事業の売上高は55億8千1百万円となりました。当社グループ全体の売上高は227億3千3百万円（前年同期比14億3千万円の減少、同5.9%減）となりました。

利益面では、売上高の減少に加え、農薬事業における新製品の広告宣伝費などが増加したことから、営業利益は6億9千8百万円（前年同期比5億4千4百万円の減少、同43.8%減）、また、経常利益は、為替差損などにより5億2千7百万円（前年同期比5億5千万円の減少、同51.1%減）、純利益は、東日本大震災による災害特別損失ならびに資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う特別損失を計上いたしました結果、2億1千1百万円（前年同期比3億7千7百万円の減少、同64.1%減）となりました。

なお、当期の中間配当につきましては、期初の予想通り一株につき4円とさせていただきましたので、ご案内申し上げます。また、年間の配当につきましては、8円とさせていただく予定でございます。

■ 下期の見込み

下期におきましては、東日本大震災の影響により景気の回復が遅れる見通しであることから、売上高は、当初発表予想より減少するもの前

期並となる見込みです。利益面につきましては、原材料の値上がりや広告宣伝費などの費用の増加、また、前述のとおり特別損失を計上することから、減益となる見込みです。

依然として厳しい事業環境が続きますが、「5ヵ年経営計画（平成22年度～平成26年度）」の達成に向け、邁進してまいります。

当社グループは、今後とも株主の皆様の期待と信頼に応えるよう業績の向上を図るとともに、企業価値を高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年8月



代表取締役社長

丸山孝雄

● 連結財務諸表(要旨)

● 第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別		
	当第2四半期 (平成23年5月31日現在)	前第2四半期 (平成22年5月31日現在)	前連結会計年度 (平成22年11月30日現在)
(資産の部)			
流動資産	32,539	31,992	31,703
固定資産	14,420	15,894	14,961
資産合計	46,959	47,886	46,664
(負債の部)			
流動負債	24,162	23,850	24,413
固定負債	9,069	9,824	8,601
負債合計	33,231	33,674	33,014
(純資産の部)			
株主資本	13,255	13,543	13,155
資本金	3,214	3,214	3,214
資本剰余金	2,608	2,608	2,608
利益剰余金	8,425	8,711	8,324
自己株式	△ 992	△ 990	△ 991
評価・換算差額等	474	669	494
その他有価証券評価差額金	755	846	755
繰延ヘッジ損益	△ 5	△ 3	△ 1
為替換算調整勘定	△ 277	△ 175	△ 259
純資産合計	13,728	14,212	13,650
負債及び純資産合計	46,959	47,886	46,664

(注) 百万円未満の金額については四捨五入によっております。

● 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別		
	当第2四半期 (平成22年12月1日から 平成23年5月31日まで)	前第2四半期 (平成21年12月1日から 平成22年5月31日まで)	前連結会計年度 (平成21年12月1日から 平成22年11月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,079	△ 2,084	717
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 444	△ 908	△ 2,487
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,871	2,638	1,352
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 29	31	△ 17
現金及び現金同等物の増減額	319	△ 323	△ 435
現金及び現金同等物の期首残高	872	1,306	1,306
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	1,191	984	872

(注) 百万円未満の金額については四捨五入によっております。

● 第2四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

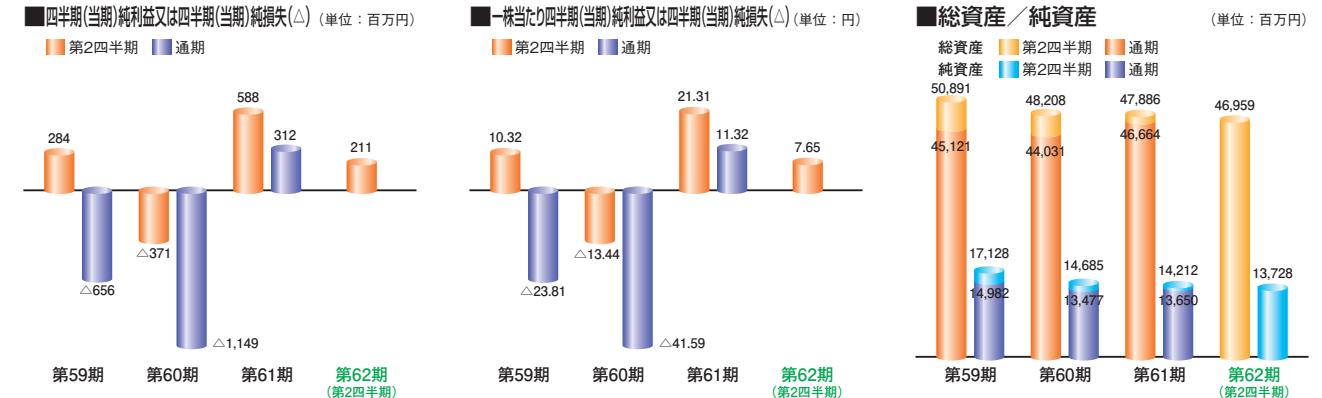
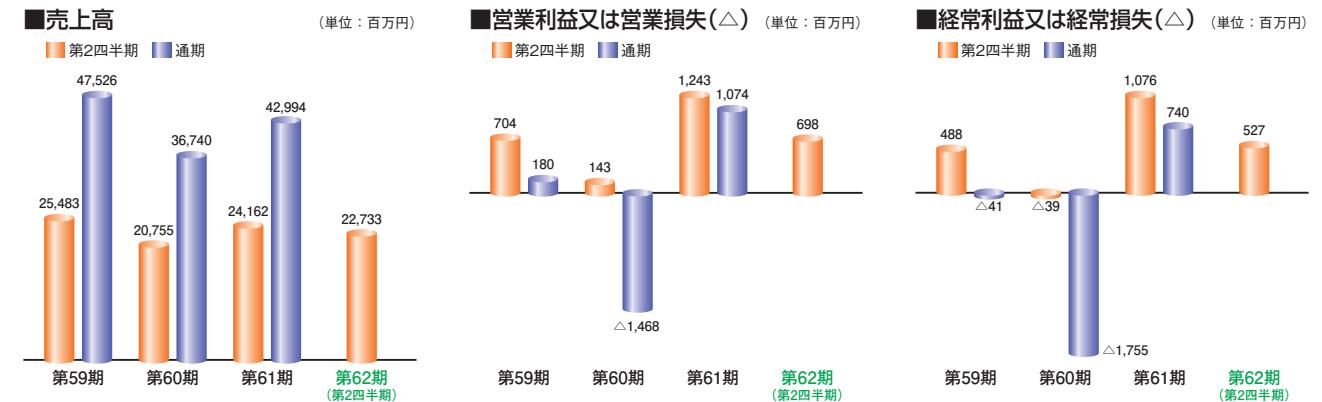
科目	期別		
	当第2四半期 (平成22年12月1日から 平成23年5月31日まで)	前第2四半期 (平成21年12月1日から 平成22年5月31日まで)	前連結会計年度 (平成21年12月1日から 平成22年11月30日まで)
売上高	22,733	24,162	42,994
売上原価	17,676	18,780	33,254
売上総利益	5,057	5,383	9,740
販売費及び一般管理費	4,358	4,140	8,666
営業利益	698	1,243	1,074
営業外収益	193	262	614
営業外費用	365	428	948
経常利益	527	1,076	740
特別利益	4	5	9
特別損失	136	24	146
税金等調整前 四半期(当期)純利益	394	1,057	603
法人税等	183	469	291
少数株主損益調整前 四半期(当期)純利益	211	—	—
四半期(当期)純利益	211	588	312

(注) 百万円未満の金額については四捨五入によっております。

● 連結財務ハイライト

	第59期		第60期		第61期		第62期
	(中間期)	(通期)	(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)
売上高(百万円)	25,483	47,526	20,755	36,740	24,162	42,994	22,733
営業利益又は営業損失(△)(百万円)	704	180	143	△ 1,468	1,243	1,074	698
経常利益又は経常損失(△)(百万円)	488	△ 41	△ 39	△ 1,755	1,076	740	527
四半期(当期)純利益又は四半期(当期)純損失(△)(百万円)	284	△ 656	△ 371	△ 1,149	588	312	211
一株当たり四半期(当期)純利益又は四半期(当期)純損失(△)(円)	10.32	△ 23.81	△ 13.44	△ 41.59	21.31	11.32	7.65
総資産(百万円)	50,891	45,121	48,208	44,031	47,886	46,664	46,959
純資産(百万円)	17,128	14,982	14,685	13,477	14,212	13,650	13,728

(注) 百万円未満の金額については四捨五入によっております。



トピックス

新規除草剤、殺菌剤販売開始！

●幅広い雑草をすばやく枯らし、長く抑える除草剤「ザクサ液剤」

「ザクサ液剤」は、一年生雑草から多年生雑草まで幅広い草種に対して高い除草効果を発揮する非選択性茎葉処理除草剤です。雑草を枯らすスピードが早いこと、雑草の発生を長期間抑えることと同時に、有効成分が土壌中で速やかに分解されることから、環境に与える負荷が小さいことが特長です。本剤の投入により、新たな分野でのシェア拡大が期待されます。



●稲いもち病に高い防除効果を発揮する「ダブルカット」

「ダブルカット」は、当社のカスガマイシンとダウ・ケミカル日本株式会社のトリシクラゾールを含有する新規水稲用殺菌剤です。本剤は2つの有効成分の作用性により、いもち病菌の稲への侵入と蔓延を強く阻害することで、優れた防除効果を発揮します。本剤は水稲本田防除の基幹薬剤として、各地域のニーズに対応するべく、殺虫剤や紋枯病防除剤との混合剤をラインナップして市場に投入します。



家庭園芸用殺虫剤「スターガード粒剤」販売開始！

当社グループの北興産業株式会社では、今年春から浸透移行性殺虫剤「スターガード粒剤」(有効成分：ジノテフラン)を家庭園芸農薬として販売を開始しました。

多くの野菜や花に登録があり、定植時の植穴土壌混和や生育期に株元散布するだけで、幅広い害虫に高い防除効果を示します。作物への薬害が少なく人畜毒性も低い優れた薬剤で、家庭菜園やガーデニング、ベランダ園芸にも最適です。商品は全国の園芸店、ホームセンターやネット通販等で販売されています。



会社の概要

(平成23年5月31日現在)

会社の商号 **北興化学工業株式会社**
 (英訳名) **HOKKO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.**
 本社 東京都中央区日本橋本石町四丁目4番20号
 創立年月日 昭和25年2月27日
 資本金 32億1,395万円
 上場取引所 東京証券取引所 市場第1部上場
 従業員数 697名

役員・執行役員の状況

(平成23年5月31日現在)

代表取締役社長	丸山孝雄
取締役専務執行役員	安部素生
取締役専務執行役員	中島喜勝
取締役常務執行役員	小林淳一
取締役常務執行役員	小川裕二
取締役常務執行役員	前田清一
取締役執行役員	内山次男
取締役	貫和之
取締役	大林守史
常勤監査役	白岩憲史
常勤監査役	尾野耕造
監査役	中崎正彦
執行役員	高橋利隆
執行役員	渡辺英夫
執行役員	大場政幸
執行役員	鎌木信良
執行役員	田村義昭
執行役員	大澤賛
執行役員	橋本哲芳

(注) 1. 貫和之、大林守の両氏は、社外取締役であります。
 2. 白岩憲史、中崎正彦の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況

(平成23年5月31日現在)

●発行可能株式総数 92,000,000株
 ●発行済株式の総数 29,985,531株
 ●株主数 6,035名
 (前期末比177名減)

連結子会社の状況

(平成23年5月31日現在)

会社名	資本金 (百万円)	当社の議決権比率 (%)
北興産業株式会社	30	100
美瑛白土工業株式会社	10	100
ホクコーパックス株式会社	10	100
張家港北興化工有限公司	1,800	100

(注) ホクコーパックス株式会社の当社の議決権比率には、間接所有40%を含んでおります。

事業所の所在地

(平成23年5月31日現在)

支店 札幌、秋田、仙台、東京、新潟、富山、名古屋、大阪、岡山、高松、福岡
 工場 北海道、新潟、岡山
 研究所 開発研究所(神奈川)、化成品研究所(神奈川)
 試験農場 北海道、静岡